

2 授業研究と協議会〈10月研究授業月間〉

家庭科 科目「家庭基礎」学習指導案

授業者 浅沼和子
 対象生徒 1年A組 35名
 日時 11月8日(木) 第3校時
 場所 家庭科室
 教科書 東京書籍
 「家庭基礎～自立・共生・創造」

- 1 単元名 第8章 経済生活営む <4>現代の消費社会 2 消費者をめぐる問題
- 2 目標 近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。
- 3 生徒と単元 男子17名、女子18名、計35名の学級である。学習で設定した生活課題に関して、自分の生活体験から積極的に意見や考えを述べ合うこともあり、家庭科に対する興味・関心が感じられる。
 本単元は、平成30年6月の民法の改正により平成34年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられることを踏まえて、新学習指導要領においても一層指導の充実を図ることが必要とされている。特に、若年者の消費者被害の防止・救済に関する題材は、学びが定着するよう他の単元との関連性も図りながら繰り返し取り扱う重要性を感じている。
 本時は、この単元全体の導入であり、消費生活に関する学習内容に必要感をもたせることをねらいとする。生徒に身近なSNSの利用に関する学習課題を設定し、発問や教材、学習形態等を工夫する中で段階的に生徒を課題解決へ導く。この単元の学びを通して、消費経済や持続可能な消費生活等に発展的な探究心をもつとともに、日常から生活課題を見出しその解決に向けて主体的に取り組む実践的態度を養いたい。
- 4 指導と評価の計画 (10時間)

次	学習内容 (時数)	評価規準			
		A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
1	4)現代の消費社会 (本時1)	消費生活に関する学習に必要な感をもっている。	消費者トラブルを招かないSNSの安全な利用について考えたり、まとめたりすることができる。		
2	1)職業生活を設計する 2)計画的に使う 3)国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4)現代の消費社会 5)消費者の権利と責任 (7)	生涯を見通した家計管理の在り方について考えようとしている。 消費者の権利や消費者支援の制度に関心をもっている。	今日の家計の特徴について、資料を活用して考え、まとめたり、発表したりしている。 消費者問題の被害の防止や救済について、具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりしている。	家庭の経済生活の諸課題についての具体的な事例を収集・整理することができる。 財・サービスの選択に際し、生活情報を収集・整理することができる。	家計と経済社会との関わりを理解している。 生涯を見通した経済計画や消費行動における意思決定の重要性を理解している。
3	6)これからの食生活と環境 (2)	自立した消費者として行動しようとしている。	生活の質を向上させるためにはどのような消費生活を築けばよいのかについて考え、工夫している。		自立した消費行動のための支援について理解している。

(参考：評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 文部科学省 国立教育政策研究所)

5 本時の計画

(1) ねらい〔評価の観点〕

- ・消費生活に関する学習に必要感をもつことができる。 [A：関心・意欲・態度]
- ・消費者トラブルを招かないSNSの安全な利用について考えたり、まとめたりすることができる。 [B：思考・判断・表現]

(2) 展開

段階 (分)	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (8)	1 単元を通しての目標を知る。 2 若者の消費者トラブルの現状を確認する。 学習課題 SNSを安全に利用するためには、どのようなことに気を付けたらよいだろうか	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が身近な問題として捉えられるよう、最近のデータ資料や生徒に実施したSNSに関するアンケートの結果を示す。 	
展開 (35)	3 映像教材（再現ドラマ）の動画を視聴する。 「個人情報公開することで発生したトラブル」 発問 この後、主人公の身にどのようなことが起こるだろうか	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目はストーリーの理解を重点にするため、メモをとらずに画面に集中するよう伝える。 ・NTT スマホ・ケータイ安全教室の再現ドラマを用いる。 ・動画は使用許可済みであることを伝える。 	
	4 ドラマの結末の余韻から、この後主人公の身に起こる可能性があることを想像する。 【個】 主発問 どの場面の、どのような行動が危険を誘因するのだろうか	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言を生かし、危険な事態を想定し回避する行動ができることの大切さを伝える。 	
	5 危険を誘因すると思われる場面を確認しながら再度再現ドラマを視聴する。 【個】	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する自分の考えを得られるよう、メモをとりながら視聴することを伝える。 	消費者トラブルを招かないSNSの安全な利用について考えたり、まとめたりすることができる。 (B) ワークシート 観察
	6 各自が4で気付いた場面とその理由について話し合い、ワークシートにまとめる。 【グループ】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が気付きやすいよう、ポイントとなる場面（写真）を黒板に張り出す。 ・机間指導 	
7 グループでまとめた内容を場面ごとに板書する。 【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理についてをキーワード化し、課題解決へ導く。 		
8 SNSを安全に利用について自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・ワークシート 		
まとめ (7)	9 本時の学習を振り返るとともに、消費生活の学習に見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート（自己評価） ・消費生活の学習に必要感をもたせられるよう、消費生活センターへ寄せられる相談内容とSNSとの関わりや成人年齢の引き下げについてを話題にする。 	消費生活に関する学習に必要感をもつことができる。 (A) ワークシート

* 「評価の観点」 A：関心・意欲・態度 B：思考・判断・表現 C：技能 D：知識・理解